

KANAE TECHNOS

環境経営レポート エコアクション21

対象期間：【第36期】 2020年11月～2021年10月



環境省
エコアクション21
認証番号 0010274



株式会社 カナエテクノス

組織の概要

1. 事業所名 / 代表者名	3
2. 所在地 / 連絡先	3
3. 管理責任者	4
4. 事業内容	4
5. 事業規模	4
6. 会社沿革	5

対象範囲／環境管理体制

1. 認証・登録の対象範囲	6
2. 環境管理体制	6

環境経営方針

1. 基本理念	7
2. 行動指針	7

環境経営目標と実績

1. 環境経営目標の設定値	8
2. 環境経営目標の実績と評価	9
3. 本社第3工場の概要	10
4. 本社第3工場：環境経営目標の実績	10
5. 環境経営目標の実績の推移	11 - 12

環境経営計画の内容と取組結果の評価

1. 環境経営計画の取組内容	13 - 14
2. 環境経営計画の取組結果の評価、次年度の取組み	15

環境関連法規等の遵守状況・評価並びに違反、訴訟等の有無

代表者による全体の評価と見直し・指示

社内教育等の取り組み



組織の概要

1. 事業所名 / 代表者名

株式会社 カナエテクノス / 代表取締役社長 上坂 史郎

2. 所在地 / 連絡先

- **本社工場**
香川県観音寺市柞田町丁93番地27
TEL 0875-56-0850 (代) FAX 0875-56-0815
- **本社第2工場**
香川県観音寺市柞田町丁93番地17
TEL 0875-23-7051 (代) FAX 0875-23-7061
- **観音寺工場**
香川県観音寺市出作町757番地
TEL 0875-57-5350 (代) FAX 0875-57-5370
- **本社第3工場**
香川県観音寺市大野原町花稻250番地
TEL 0875-52-3533 (代) FAX 0875-52-3534

□ URL : <https://www.k-technos.com/>

香川県
観音寺市



■ 東京営業所

東京都中央区日本橋人形町1-19-2 TMビル 4F

TEL 03-6661-9716

FAX 03-6661-9824

東京都



3. 管理責任者

- 環境管理責任者 : 庄野 明博 (専務取締役)
- 担当者 : 藤田 香里 (管理部 経理課課長)
- 担当者連絡先 : 0875-56-0850

4. 事業内容

1. 化粧用品の製造並びに販売
2. 医薬品及び医薬部外品の製造並びに販売
3. 医療用具の製造並びに販売
4. 衛生用品の製造並びに販売
5. 介護機器、介護用品の製造並びに販売
6. 動物用医薬部外品の販売
7. 栄養保存食品及び栄養補助食品の製造ならびに販売
8. 紙類の製造ならびに販売
9. 防虫剤、芳香剤の製造ならびに販売
10. 前各号に付帯する一切の事業



5. 事業規模

- 資本金 : 2億4千万円
- 売上高 : 66.8億円 (2020年10月21日 ~ 2021年10月20日)

	本社	観音寺工場	本社第2工場	本社第3工場	東京営業所
従業員	107名	20名	80名	10名	5名
延べ床面積	8,276㎡	3,142㎡	7,076㎡	10,823㎡	33㎡



6. 会社沿革

弊社独自の商品開発力と特殊加工技術、高い生産力および品質管理力を結集、社員一人一人のマンパワーを活力に、「高い生産力と品質力の結合した企業」を实践し、私どもはOEM加工会社として、国内外のお客様から厚い信頼をいただいております。



品質本位の「モノ」造りのプロフェッショナル集団として

「つねに前へ」

—— 多様化するユーザーとマーケットのニーズを早急に謙虚に採り入れ、
スキンケアシート商品で **グローバル No.1** を目指してまいります。



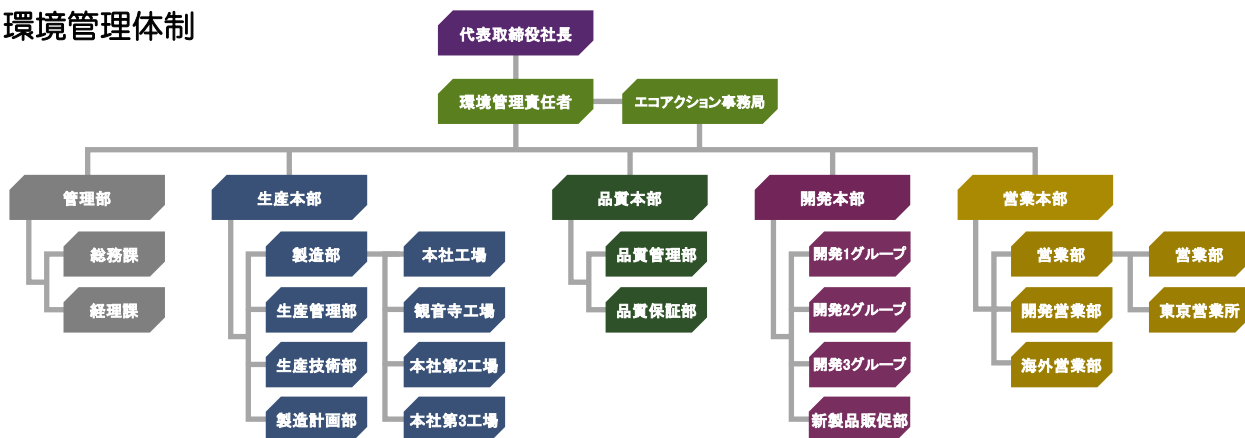
■ 対象範囲／環境管理体制

1. 認証・登録の対象範囲

登録事業所 : 本社・本社工場、観音寺工場、本社第2工場、東京営業所
本社第3工場（2022年10月 取得予定）

活動レポートの対象期間 : 2020年11月～2021年10月

2. 環境管理体制



		役割・責任・権限
代表取締役社長		<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者		<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境経営方針の見直し及び全従業員への周知 全従業員に対する教育・訓練の実施 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境経営目標、環境経営計画書を承認 環境経営の取り組み結果を代表者に報告 環境経営レポートの作成 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部門長	管理部 エコアクション事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境負荷の自己チェック及び、環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書の作成 環境活動の実績集計
	営業本部	<ul style="list-style-type: none"> 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告
	品質本部	<ul style="list-style-type: none"> 自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	開発本部	<ul style="list-style-type: none"> 自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	生産本部	<ul style="list-style-type: none"> 自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員		<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加



基本理念

当社は ” 豊かな自然に恵まれた地球の環境を永遠に保っていくこと ” が私たち人類の果たすべき使命であると自覚し、環境負荷の少ない製品造りを行うとともによき社会の一員として、環境保護活動への参画、支援に取り組み、地球環境の保全に努めます。

行動指針

1. 国、地方自治体などの環境法規制を遵守し、環境保全に努めます。
2. 省エネルギーを行い、二酸化炭素の削減に努めます。
3. 廃棄物の削減に努めます。
4. 排水量の削減に努めます。
5. 化学物質の最小限度の使用に努めます。
6. グリーン購入に努めます。
7. 環境にやさしい製品の開発に努めます。
8. 環境保護活動への参画・支援を推進します。
9. 持続可能な社会に貢献する製品の開発に繋がります。

これらについて、環境経営システムを構築して、環境経営目標、環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。その成果を、環境経営レポートにまとめて、社内外に公表します。

制定日：2020年 9月 21日

株式会社カナエテクノス

代表取締役社長 上坂 史郎

環境経営目標と実績

1. 環境経営目標の設定値

項目	単位	環境目標値			
		《基準年》 35期 (2020年)	[対象年] 36期 (2021年)	37期 (2022年)	38期 (2023年)
二酸化炭素の削減	kg-CO ₂	2,795,317	—	—	—
生産1 t 当たりの二酸化炭素	kg-CO ₂	353	1%削減目標 → 349	346	343
電気使用量の削減 * 1	kg-CO ₂	2,622,262	—	—	—
	kWh	4,086,811	—	—	—
その他 (LPガス・ガソリン・軽油)	kg-CO ₂	173,055	—	—	—
生産1 t 当たりの電力使用量	kg-CO ₂	331	1%削減目標 → 328	325	321
廃棄物排出量の削減	t	3,151.0	—	—	—
生産1 t 当たりの廃棄物排出量	t	0.40	1%削減目標 → 0.39	0.39	0.39
水総使用量の削減	m ³	16,678	—	—	—
生産1 t 当たりの水使用量	m ³	2.11	前年を維持 → 2.11	2.11	2.11
化学物質使用量の削減	kg	6,297.0	—	—	—
生産1 t 当たりの化学物質使用量	kg	0.80	1%削減目標 → 0.79	0.78	0.77
生産重量	t	7,919.0	—	—	—
グリーン購買の推進	円	2,667,375	10%UP目標 → 2,934,113	3,227,524	3,550,276
組織本来の取組 (品質異常発生率の削減) * 2	発生率 ppm	0.19	3%削減目標 → 0.18	0.18	0.17

* 1. 電力のCO₂ 発生量については、ENEOSでんきの実排出係数 0.494 (kg-CO₂ /kWh) (令和元年発表)を使用した。

* 2. 組織本来の取組として「品質異常発生率の削減」に取り組めます。
品質異常発生率 = 品質異常発生件数 / 生産数量



2. 環境経営目標の実績と評価

取組期間：36期（2020年11月～2021年10月）

目的	単位	基準年35期 (2019年11月～ 2020年10月)	36期目標 (2020年11月～ 2021年10月)	36期実績 (2020年11月～ 2021年10月)	達成率	評価
二酸化炭素の削減	kg-CO ₂	2,795,317	—	2,517,615	—	—
生産1 t 当たりの二酸化炭素	kg-CO ₂	353	349	442	79 %	△
電気使用量の削減	kg-CO ₂	2,622,262	—	1,906,235	—	—
	kWh	4,086,811	—	3,858,775	—	—
その他 (LPガス・ガソリン・軽油)	kg-CO ₂	173,055	—	611,380	—	—
生産1 t 当たりの電力使用量	kg-CO ₂	331	328	334	98 %	△
廃棄物排出量の削減 (産業廃棄物量の削減)	t	3,151.0	—	1,934.0	—	—
生産1 t 当たりの廃棄物排出量	t	0.40	0.39	0.34	115 %	○
水総使用量の削減	m ³	16,678	—	17,442	—	—
生産1 t 当たりの水使用量	m ³	2.11	2.11	3.06	69 %	×
化学物質使用量の削減	kg	6,297.0	—	4,959.0	—	—
生産1 t 当たりの化学物質使用量	kg	0.80	0.79	0.87	91 %	△
生産重量	t	7,919.0	—	5,699.0	—	—
グリーン購買の推進	円	2,667,375	2,934,112	2,749,674	94 %	△
組織本来の取組 (品質異常発生率の削減)	発生率 ppm	0.19	0.19	0.33	58 %	×

【評価基準】

○：達成 △：未達成だが、努力が見られる ×：未達成

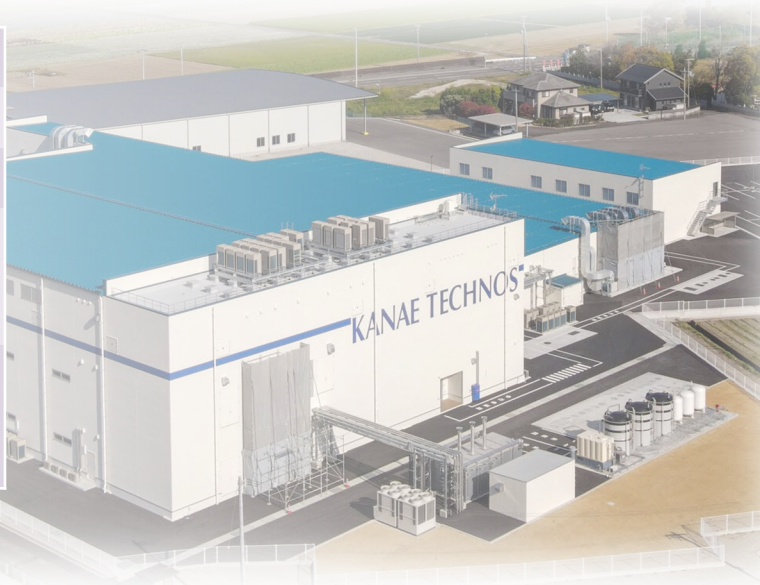
【コメント】

- ① 36期は、コロナの影響もあり大幅に受注が減少し、売上高は前年より20%減少した。それに伴い、生産重量も減少したため、二酸化炭素の絶対排出量は26%削減できたが、単位重量当たりのCO₂排出量は、逆に増加した。
- ② 「組織本来取組み」についても、品質異常発生件数は減少したが、生産数量が大幅に減少したことで発生率としては達成できなかった。
- ③ グリーン購入については、経費の見直しも図り、購入金額が減少した。



3. 本社第3工場の概要 【今回の拡大審査工場】

従業員	10名
敷地面積	20,387 m ²
延床面積	10,823 m ²
製造品目	<ul style="list-style-type: none"> ウェットティッシュ (高濃度アルコール含浸) プリスター etc.
工場の構成	<ul style="list-style-type: none"> 製造棟 : 3階建 危険物棟 : 1階建 厚生棟 : 2階建



4. 本社第3工場：環境経営目標の実績

取組期間 : 2021年7月 ~ 2021年12月

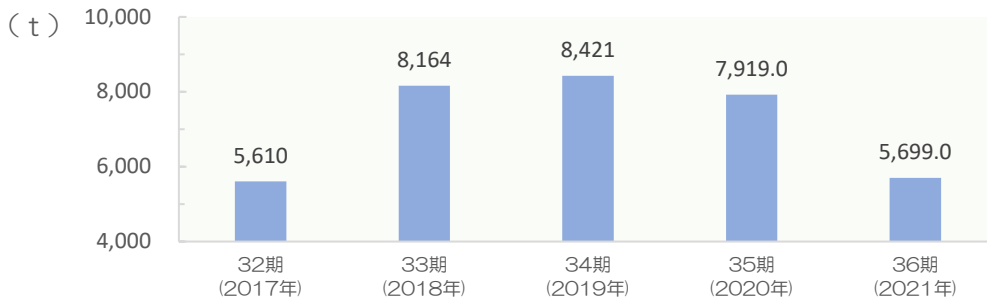
目的	単位	基準 (2021年7月~9月)	目標	実績 (2021年10月~12月)	達成率
二酸化炭素の削減	kg-CO ₂	335,236	—	193,254	—
生産1 t 当たりの二酸化炭素	kg-CO ₂	3,853	3,815	6,442	59%
電気使用量の削減	kg-CO ₂	301,958	—	167,800	—
	kWh	549,014	—	305,091	—
その他 (LPガス)	kg-CO ₂	33,278	—	25,454	—
生産1 t 当たりの電力使用量	kg-CO ₂	3,471	3,436	5,593	61%
廃棄物排出量の削減 (産業廃棄物量の削減)	t	全社共通目標とする			
生産1 t 当たりの廃棄物排出量	t	全社共通目標とする			
水総使用量の削減	m ³	738	—	324	—
生産1 t 当たりの水使用量	m ³	8.5	8.5	10.8	79%
化学物質使用量の削減	kg	全社共通目標とする			
生産1 t 当たりの化学物質使用量	kg	全社共通目標とする			
生産重量	t	87	—	30	—
グリーン購買の推進	円	全社共通目標とする			
組織本来の取組 (品質異常発生率の削減)	発生率 ppm	全社共通目標とする			

* 3月から6月までは稼働実績がなく、基準を7月から9月に設定し、実績を10月から12月までとした。
また、10月から12月においては、稼働日数が少なく生産重量が減少したため、目標値を達成することができなかった。

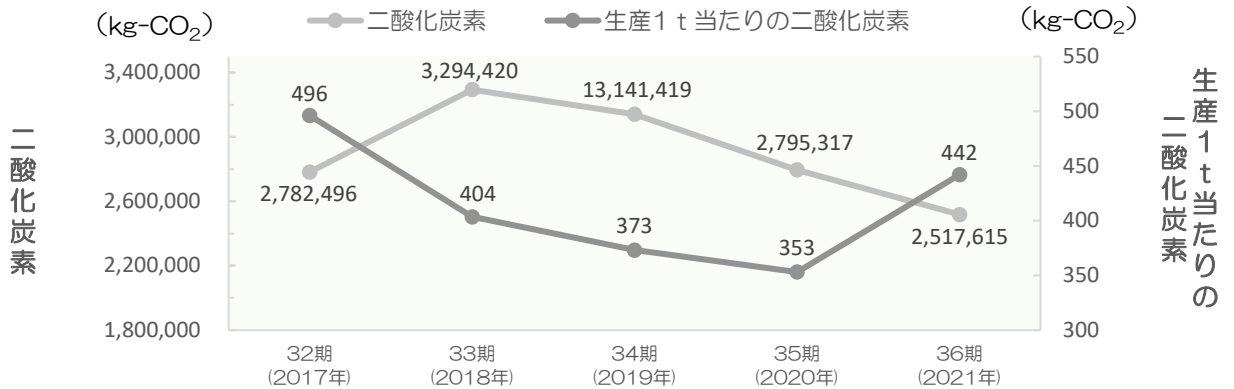


5. 環境経営目標の実績の推移

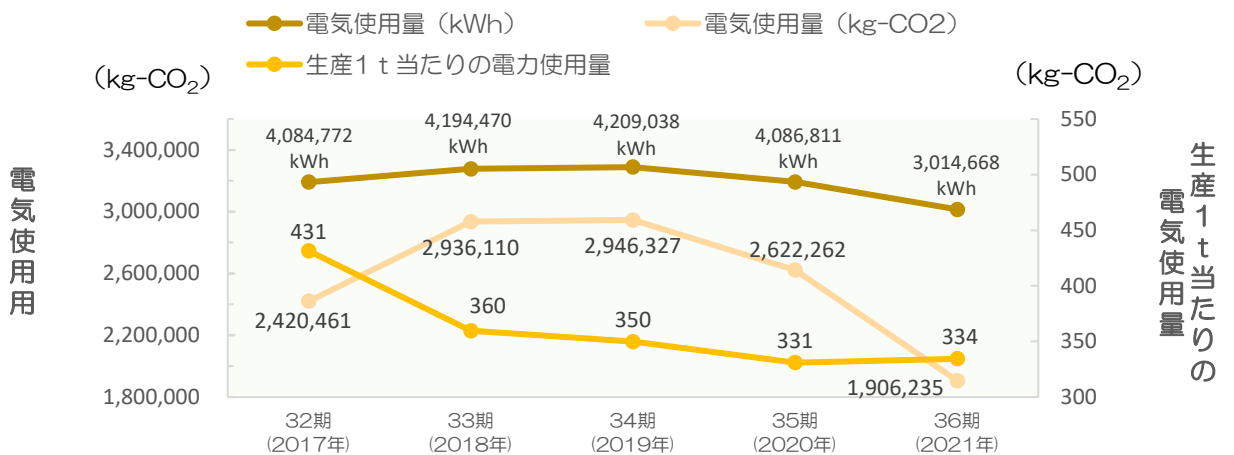
■ 生産重量



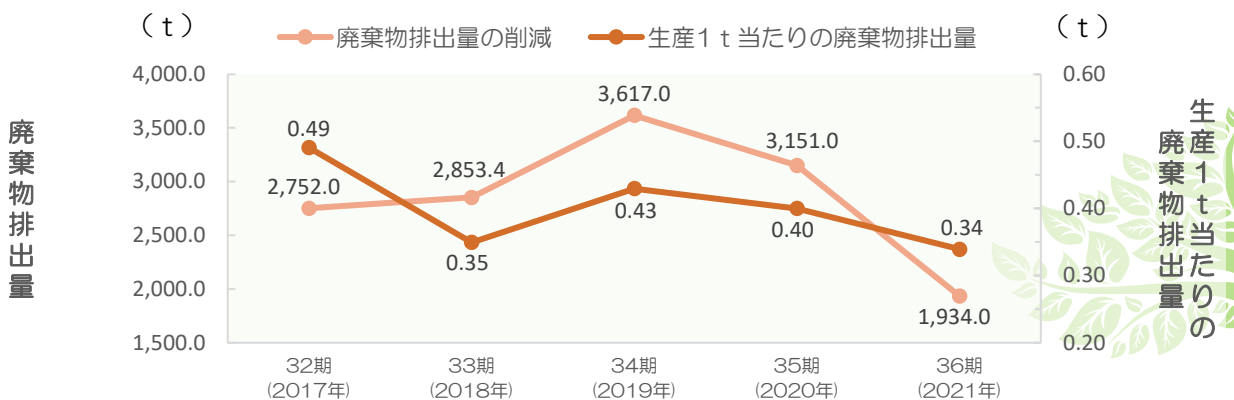
■ 二酸化炭素の削減



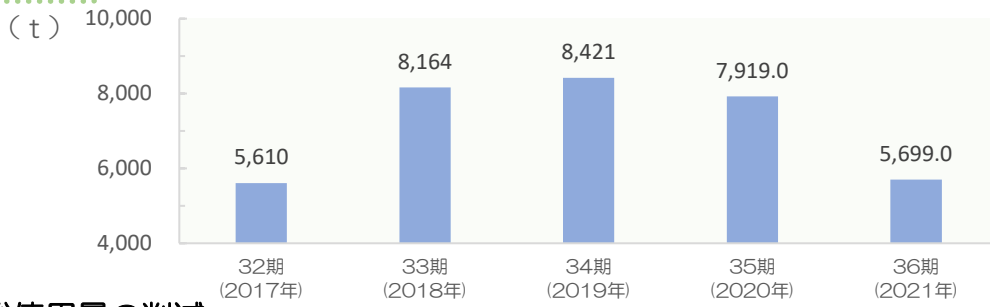
■ 電気使用量の削減



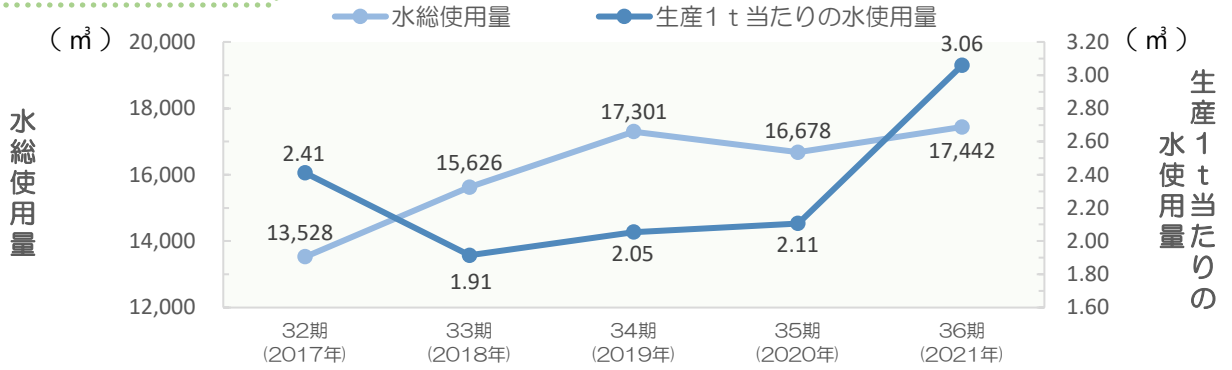
■ 廃棄物排出量の削減



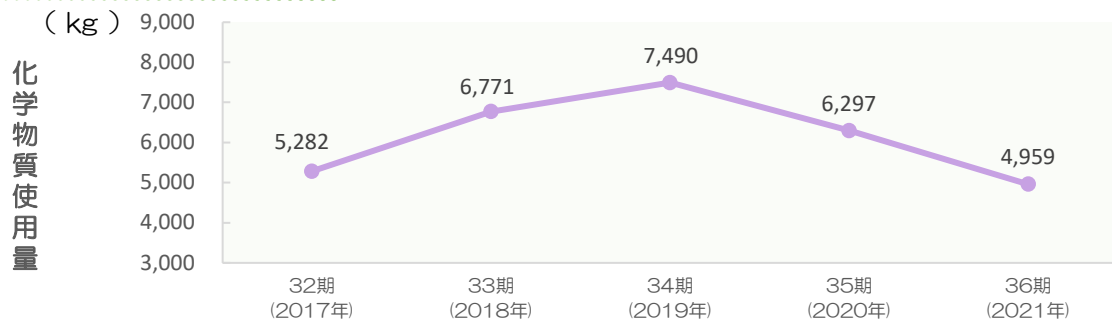
■ 生産重量



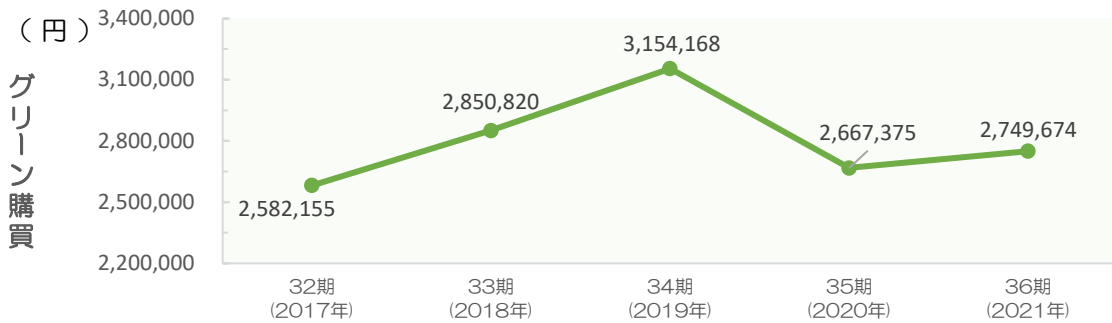
■ 水総使用量の削減



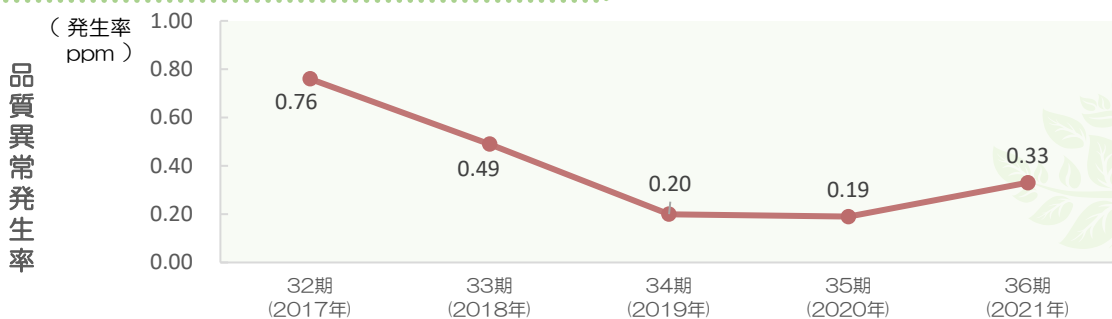
■ 化学物質使用量の削減



■ グリーン購買の推進



■ 組織本来の取組 (品質異常発生率の削減)



環境経営計画の内容と取組結果の評価

1. 環境経営計画の取組内容

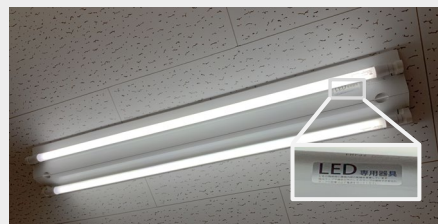
二酸化炭素排出量の削減

社有車



社有車にはハイブリッド車を採用

LED照明



工場棟・事務棟ともに蛍光灯からLEDに交換。

節電表示

エアコン設定温度表示



適正設定温度を掲示し、
実際の設定温度を記録しています。

消灯表示



トイレ、更衣室、各事務所に
消灯表示を掲示。

電力表示



本社工場ではリアルタイムで
瞬間電力の数値を確認できます。

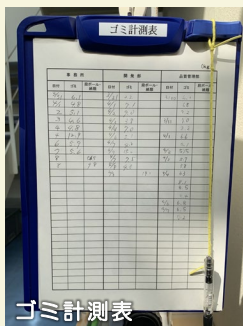
廃棄物排出量の削減

紙類リサイクル

紙類分別



使用済コピー用紙やダンボールを分別・計量し、
古紙回収業者へ買取をお願いします。



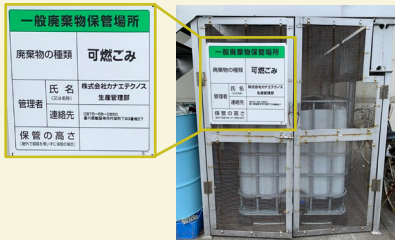
裏紙の再利用



全社にて、重要な書類以外は、極力裏紙を使用して
印刷するようにしています。



廃棄物保管表示



各工場で廃棄物の保管場所・保管方法を設定し、表示を設けています。

資源回収



ボトルキャップやプラタブの回収に取組んでいます。



水使用量の削減

器具洗浄

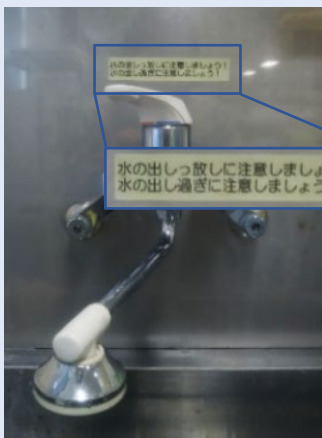


『バブル90』を工場内の蛇口に取付。水に空気を含ませ、洗浄力を下げずに水の使用量を削減可能。



品質管理部にて超音波洗浄器を使用し、器具をまとめて洗浄。

節水表示



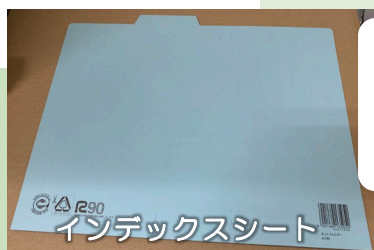
食堂、トイレ、給湯室、開発部、品質管理部の蛇口に節水表示。

RO濃縮水の再利用



RO膜（逆浸透膜）により排水をろ過し、トイレの水として再利用しています。

グリーン購買の推進



再生紙（古紙パルプ配合率70%以上）



2. 環境経営計画の取組結果の評価、次年度の取組み

環境項目	活動計画	部署	評価	総括	次年度の取組み
1. 二酸化炭素排出量の削減	① 昼休み、不在時の消灯を行う	全社	○	不在時の消灯など、全工場で節電を目標に掲げ、実施できた。 退社時の消灯チェック記録も全工場で開始した。	次年度も取組みを継続する。
	② エアコンの温度管理を行う	全社	○		
	③ 退社時の消灯チェックを行う	全社	○		
	④ 長期休暇機器のコンセントを抜く	全社	○		
	⑤ クールビズ・ウォームビズの徹底に取り組む	全社	○		
	⑥ エコドライブを実施する	全社	○		
	⑦ フォークリフトの安全運転実施	製造	○		
2. 廃棄物排出量の削減	① 廃棄物の分別・計量を実施	全社	○	廃棄物の分別/計量は、全工場で定着した。 製造部内でロス改善プロジェクト活動中。	次年度も取組みを継続する。 ロス削減に注力すること。
	② 事務用品のリユース・リサイクルに取り組む	全社	○		
	③ ゴミ袋はいっぱいになってから捨てる	全社	○		
	④ ロスの削減に取り組む	製造	○		
	⑤ 「廃棄不良品」の削減に取り組む	品管	○		
	⑥ 紙管のリサイクルに取り組む	製造	○		
3. 水総使用量の削減	① 節水の掲示を行う	全社	○	節水については、定着してきた。 RO濃縮水の再利用は継続している。 工場現場の水道蛇口に「バブル90」を設置した。	次年度も取組みを継続する。
	② 水の出しっ放し、出し過ぎに注意する	全社	○		
	③ RO濃縮水のトイレへの再利用を継続する	製造	○		
4. 化学物質使用量の削減	① 新規製品の開発については、アセトニトリルをメタノールに変更する	品管	△	顧客指定の試験法は変更ないので、②と③を積極的に取り組んでいる。	次年度も取組みを継続する。
	② 分析時間を短縮して、化学物質の使用量を減らす	品管	○		
	③ 分析に使用する液量を最小限度にして、化学物質の過剰な使用をしない	品管	○		
5. グリーン購入の推進	① グリーン購入品リストを作成する	総務	○	①～③は、定着している。	次年度も取組みを継続する。
	② エコマーク製品の購入を推進する	品管	○		
	③ コピー用紙は再生紙を利用する	総務	○		
	④ エコ資材の導入を検討する	開発	○		
6. 組織本来の活動 品質異常品発生率の削減	① ゴミが多い＝品質異常品が多いなので、1年間のライン別のごみ量を計量して実態把握をする	全社	○	品質事故の共有化は、ライン朝礼で通知することが定着している。 また、工場別に製造部・品質管理部の合同会議を毎週実施した。	次年度以降も継続する。 ルールの徹底化により、品質事故の再発を防ぐこと。 ボカミス事例を毎週工場別に記録し、製造・品管の理解を共有する。再発防止にいかす。
	② 品質異常発生件数を生産量で除していたものを指標として削減結果を評価する	全社	○		
	③ 指差し確認によるダブルチェックにより、ケアレスミスをなくす	全社	△		
	④ 他ライン、他工場での品質事故事例の共有を図る	全社	○		

【評価基準】

○：達成

△：未達成だが、努力が見られる

×：未達成



当社に架かる主な法規制は次のものです。

区分	No.	法令名	法令の適用を受ける場合	該当する施設・物質・化学物質等	適用	遵守状況
環境全般	1	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	フロン類の製造から廃棄まで、ライフサイクル全体を包括的な対策を実施。 【簡易点検】 自社での点検。 業務用冷凍冷蔵機器・空調機器：3か月に1回以上、機械の庫内温度、異音、外観の損傷、腐食、さび、油のにじみ、熱交換器の霜付き等の冷媒として充填されたフロン類の漏洩がないか確認。 【定期点検】 専門業者による点検。 冷蔵機器及び冷凍機器：定格出力7.5kW以上-1年に1回以上 空調機器：定格出力50kW以上-1年に1回以上 定格出力7.5~50kW未満-3年に1回以上 【廃棄時】 製品に含まれるフロン類をフロン回収業者へ引渡&費用負担。 点検整備記録はその機器を回収業者が引取後、3年間保存。	業務用エアコン	○	○
公害防止関連	2	ダイオキシン類対策特別措置法	電気炉、廃棄物焼却炉その他のダイオキシン類を発生する特定施設を設置する工場又は事業場。	廃棄物焼却炉	○	○
	3	騒音規制法	指定地域。22.5kW以上の圧延機械、30t以上の機械プレス、7.5kW以上の空気圧縮機及び送風機、2.2kW以上の印刷機械等の特定施設。	コンプレッサー	○	○
	4	振動規制法	指定地域。機械プレス、1kW以上のせん断機、7.5kW以上の空気圧縮機、印刷機械等の特定施設。	コンプレッサー	○	○
廃棄物リサイクル	5	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の排出事業者。収集運搬業・処理業の認可者。 排出時の管理表と管理表年間交付状況報告を電子マニフェストにて対応。	廃プラ、一般ごみ、焼却炉の燃えカス	○	○
	6	再生資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	パソコン等の特定又は指定品目の所有者、製造者等	パソコン	○	○
	7	特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンの消費者、事業者、小売業者。	テレビ、冷蔵庫、エアコン	○	○
	8	使用済み自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	自動車所有者、引取り業者、フロン類回収業者、解体業者等	業務用自動車3台	○	○
化学物質	9	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	常用雇用者数21名以上で、第一種指定化学物質を年間1トン以上、特定第一種指定化学物質を年間0.5トン以上取扱う事業者等	パラオキシ安息香酸メチルエステル	○	○
	10	労働安全衛生法 ・有機溶剤中毒予防規則（有機則）	安衛令別表に定める有機溶剤（第1~3種の54種）及びその混合物（5%以上）を使用する事業場	メタノール、イソプロピルアルコール	○	○
	11	労働安全衛生法 ・特定化学物質等障害予防規則（特化則）	安衛令別表に定める特定化学物質（第1~3類）を使用する事業場	塩化水素、硝酸、硫酸、アンモニア	○	○
	12	消防法（危険物）	消防法で定める危険物を指定数量以上貯蔵、又は取り扱い。危険物を運搬業。	エタノール、重油	○	○
県・市条例	13	香川県環境基本条例	事業活動に伴い、環境に負担をかけない措置、美化活動など、積極的な環境保全の努力	環境保全	○	○
	14	香川県生活環境の保全に関する条例	特定工場及びばい煙、粉じん、汚水、騒音、振動、悪臭に係る特定施設設置工場等	騒音・振動・悪臭	○	○
	15	観音寺市環境基本条例	事業活動に伴い、公害の防止、廃棄物の適正処理、自然環境の適正な保全を図る	環境保全	○	○
	16	観音寺市公害防止条例	工場等の届出 特定施設の届出、規制基準の遵守	工場等の設置	○	○
	17	観音寺市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	事業活動に伴う一般廃棄物の適正処理 一般廃棄物の再生利用及び減量の努力	廃棄物	○	○

■ 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による見直しを2021年11月20日に実施し、下表の結果でした。

	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境経営方針	なし	環境経営方針としては見直し必要なし。
2	環境経営目標	なし	売上げの減少等により目標が未達に終わった項目もあるが、継続して取り組むべき課題であるため、見直しは不要。
3	環境経営計画	なし	ほとんどが達成できているため、見直しは不要。このまま継続すること。
4	実施体制	あり	2021年3月には新工場(本社第3工場)が稼働し始め、4工場体制となった。来年からは評価対象として含めること。

【 全体評価コメント 】

新型コロナウイルスの蔓延が化粧品業界に強い影響を与え、国内消費量の減少に加え、訪日観光客の制限によってフェースマスクの売上げが激減した。その結果、二酸化炭素の絶対排出量は26%削減できたが、単位重量当たりのCO₂排出量削減は、計画通りに実行できなかった。

とはいえ、「脱炭素」や廃プラスチック対応は遅延が許されないため、益々積極的な環境対応製品の開発が要求されている。開発スピードを上げること。

ロス改善活動及び省エネ対策（作業室温度の一定化や夜間空調のOFFなど）は効果を上げているが、まだまだ端緒についたばかりである。継続すること。

代表取締役社長 上坂 史郎



■ 社内教育等の取り組み

エコアクション会議



各工場で毎月エコアクション会議を開催。各部署毎の活動内容発表や、部署同士での意見交換を通して、改善に向けて新たな活動目標の設定を行っています。

避難訓練



年一回、各工場にて避難訓練を行います。避難完了までの時間計測や消火器の取扱い訓練も併せて行います。

本社第3工場：環境への配慮



本社第3工場の新設に伴い、緑地を設け維持管理を行っています。また、周辺の住宅地への騒音を抑えるため防音壁を設置しています。